

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「資料に書かれたことから根拠を見出し、課題に対しての理由を詳しく書いたりまとめたりすること」に課題がある。

○算数では「提示された条件を満たすための答えを求める際に立式したり、その理由を説明したりすること」に課題がある。

○理科では「既習事項を基にして適切な条件を見出すこと」に課題がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○読み取った内容を踏まえて自分の意見や考えを表現する技術が不十分である。毎回の授業で必ずOUTPUTをする学習計画を立て、児童が自分の考えを述べたり伝え合ったりする活動を展開する。

○文章や図等から読み取ったことをつなぎ合わせて立式するために、各単元で得られた知識を確実に積み重ねる。ICT機器などを利用して可視化した情報を具体的に得られるようにし、知識の獲得を効果的に行えるよう工夫する。

○既習事項を日常生活で活かせるよう、実験の充実等で体験的な学習をより計画的に行い、知識と経験を結び付ける機会を増やす。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

「自分の思い、願い、考えをもち、豊かに表現できる子の育成」

○板橋区授業スタンダードS・Bを基軸にして子どもたちの「読み解く力」の育成を目指した授業を行う。INPUT、THINK、OUTPUTの学習活動を実施し、必ずめあてに対しての表現活動を行うと共に、「自分の学習の進め方を自分が選び、決める学習」を実現する。

○基礎・基本の徹底をして、子どもたちにとって分かる授業、楽しさを感じられる授業を行う。そのために「チーム学年」での指導を促進し、学年共通の計画的な学習を行う。モジュールの時間や朝自習、読書などで読み解く力の礎となる学習活動を行うと共に、交換授業や合同授業を行い、学年で子どもたちを指導する。

○「チーム徳丸」、「徳丸愛」を合言葉に、保護者や地域と連携した学習の在り方を開発し、主体的で探究的な学習を行い、「自分の思い、願い、考えをもち、豊かに表現できる子の育成」と「地域のよさを語れる子」の実現を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードS・Bの徹底	読み解く力の育成	地域の人材を生かした学習
授業者は具体的な言語活動としての「OUTPUT」までを含めためあてを板書し、振り返りまでの学習を徹底する。その上で「児童自身が自己決定、自己調整ができる計画的な学習を実践する。」	児童自身が教科書や資料などを読み取り、自分で課題を解決する時間を確保する。自分の考えを言葉、図表、式などから適切な方法を用いて表現できるよう個別に指導をすると共に、ペア学習なども効果的に行う。	生活科・総合的な学習を中心に、CS委員会、学校支援地域本部、PTA等の地域人材と連携、協力した学習活動を行い、地域愛を醸成する。「地域のよさを語れる子」を育成していく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	地域支援の推進
○子どものつまずきがどこでどのように生じているかを認識し、「わかる・できる・楽しい授業」を実践していく。 ○学びのエリア研修の機会には、育てたい資質・能力を、生涯にわたって学び変え続ける自己学習力や自己決断力である「読み解く力」について共通理解をもち、小学校、中学校ともに実践していく。 ○校内研究をもとにして、同校種、異校種間の授業見学、また授業後の協議会への参加など授業交流を積極的に行う。小学校と中学校の教員が共に授業をする機会をもつなどして授業力向上と一貫教育を進める。	○紙ベース型のドリル教材と、「すららドリル」などのデジタルドリルを併用し、指導の個別化を推進する。 ○端末の様々なアプリを効果的に活用し、各教科・領域での学びを深め、対話的で主体的な深い学びを実現する。 ○端末を使用するルールや個人情報等の取り扱い等、情報モラルについての学習を行う。 ○教員間での研修を行い、互いにスキルを高めて授業実践に生かす力をどの教員も身に付ける。	○生活科見学・社会科見学等校外での活動や、家庭科や学校行事など校内での活動に対して安心・安全を確保するための保護者・地域へのボランティアを要請する。 ○CS委員会への教職員・6年児童の参加を通し、学校・地域・児童の要望を明確化し、実現の協力を得る。 ○生活科・総合的な学習では地域の人材を募り、学習のめあてに沿ったゲストを迎えての学習を行えるよう連携を強化する。